

閉会式

チャン ティ ゴック チュック
ホーチミン市立幼児師範学校長挨拶 Tran Thi Ngoc Chuc

私たちのセミナーは、私自身が思っていた以上の成功を収める事が出来たと思う。高齢者介護という全人的な人間の間で行われる高齢者介護は日本やベトナムだけで起こっている事ではなく、全世界的な問題だと言える。そして、特にこの3日間のセミナーにおいて、施設や家族における高齢者の残された力、まだまだ出来る事に注意を向けることが出来たと思う。本当はセミナー中に私も発表したかったが、時間の関係もあり、断念した。ここで少し触れておきたいが、私の父は既に80歳で亡くなったが、父は家において目覚まし時計の役割をしていた。一人の高齢者は3人の役割を担う事が出来る、とよく教えられた。高齢で重い病気や障害を負っていて、介護や介助、支援を必要としている、家族の中で精神的なよりどころとなっている。この3日間で話し合ってきたのは、専門的なスキルや知識だけではなく、人と人がどのように関係し、どのようにして生きていくのか、ということだった。このセミナーの成功は、大阪健康福祉短期大学から、こうしたすばらしい知識と経験を提供してくださったからだと思う。高齢者を介護する際には、介護する側が専門的知識と専門的技術を兼ね備えなければならない。

日本の先生方に有効だと思われる情報を伝えたい。実は、ベトナムの各病院では、家族が入院している人の介護をお願いできる第三者がいる。専門的な養成はされていないが、付添人のような人で、各病院にいる。こうした人が知識やスキルを持ち合わせる事が出来るようになったら、どんなにいいだろうか、と考える。何度も言うが、介護の際には専門的な知識と技術をもった専門家の養成は不可欠だ。以前、藤本先生がベトナムにいらして、障害児教育の教員養成コースを造ったのは、ベトナムでは初めての取り組みだった。これからこのセミナーを通して、高齢者介護に携わる専門家

の養成をベトナムで始める、第一歩にこぎつけたら、と願っている。

もう一つ、喜ぶべきは、大阪健康福祉短期大学とホーチミン市立幼児師範学校の関係者だけではなく、様々な他の関連団体、機関、大学から参加していただけた事だろう。私たちは決して孤独ではないのである。

ここで参加してくださった方を紹介したい。障害児教育センター、南部社会研究院、ダ・ティエン障害児学校、仏教教会、オープン大学社会学部、人文科学大学社会学部、中央第三幼児師範短期大学などの関係者や、学生も参加してくださった。こうした皆さんのおかげで成功を収める事が出来たと言える。今後、高齢者介護という専門分野がベトナムで発展していくためには、このセミナーに参加してくださった幼児師範学校以外の方の協力も欠かせないだろう。

改めて、大阪健康福祉短期大学の先生方の知識や技術など、有意義な事を教えてくださった事に心から感謝したい。これは個人的意見だが、セミナーの参加の仕方にも多くのことを学んだ。ただ観光に来られただけではなく、多くの専門的知識と技術を教えてくださった。さらに、教育的目的を持って学生を施設に連れて行き教育する、という活動をしていた。これは非常に勉強になった。また、初日の学生交流では、学生だけではなく、全員で花笠音頭を踊って下さった。これも学生と教員の関係性を学ぶ、非常に良い機会だった。

日本から来てくださった皆様に心からお礼を申し上げるとともに、皆様のご健康とより良い新年を迎えられるよう、お祈り申し上げます。今後さらに有意義な活動を一緒に実践していけたら、と思う。